

## 菊地則雄：Mid Congress Tour “Katsuura Seaweed Collection Tour” 開催記

2008年5月、IPC9 実行委員就任の打診があり、館内調整の後、受諾。当初、別の観光地のツアーを担当とのことだったが、準備等が困難と思われたので、千葉県立中央博物館分館海の博物館のある千葉県勝浦での海藻採集ツアーに変更してもらった。8月上旬に、ツアー当日の潮位条件などと同様の日を選んで、採集予定場所で見られる海藻を調査、リストを作成した。また、当日のタイムスケジュール等の計画作成、必要経費の計算等を行い、提出。10月、セカンドサーキュラー (SC) に載せるツアーの英文案内と写真を提出。11月、SC の文章等の確認。2009年7月、ツアーを担当する観光会社に、再度、計画、必要経費を提出したり、詳細の確認等。参加者名簿を入手し、当日の詳細な計画立て。7月下旬から開催日前にかけて配布資料の準備 (当日の予定や諸注意を記したもの、当館の刊行物など) や当日の段取りの決定、館内説明等。前日は終日会場準備。当日は、自分は博物館で受入準備。分館海の博物館分館長の宮田昌彦氏に、東京からの参加者の引率をお願いした。15:00 に終了後、宮田氏が東京まで引率。自分は次の日まで後片付け。ざっと振り返るとこのような経過だった。

8月5日の当日は、34名の参加者が9:00 すぎに博物館に到着、館内で採集時の諸注意や予定等の説明をした後、早速磯に出て採集を行った。天気はくもりだったが、低気圧が南海上にあったため予定の潮位よりも潮が高く波も荒く、残念ながら予定より狭い範囲、短時間で採集を終了した。昼食後は館内で標本作りなどの処理をしてもらった。今年はやや水温が低かったせいか、いつもはすでに枯れて見られない種類も採集されており、多くの参加者から「海藻が多くて素晴らしい場所だ」と言われ、「良いツアーだった」と御礼を言われた。苦労が報われるとともに、勝浦がいかに海藻の豊富な所かを再認識した。

今回、ツアーを持って一番苦労したのは、開催日が8月上旬の潮の良い日という、当館にとっては1年のうちでも最も来館者の多い時期だったことだ。その前の6、7月も学校団体などが磯観察等で多数来館する時期にあたり、7月から開催される企画展示の準備もあったので首がまわらなかった。また資料の作成も当日の説明も苦手な英語で行わなければならない、そのあたりは宮田氏や観光会社の添乗員さんにだいぶお世話になった。当日はあたふたした対応に終始してしまっただが、何人かの参加者とはいろいろとお話ができて楽しかった。「また採集に来ていいか？」との質問もあり、「ぜひどうぞ」と答えた。参加者には様々なスタイルがあり、終了時刻ぎりぎりまで一生懸命サンプルの処理をしているグループもあれば、「写真だけで良い」と採集をしていない方もいた。海藻のおしぼり標本の作り方を知らない方もいて、作り方を説

明させられたのには面食らった。

このような体験は二度とないと思うが、今後のために気の付いた点を少しあげておく。

- ・当日は間に入った観光会社の添乗員さんに大変お世話になった。しかし今年になって関わったためか、すでに提出済みだった計画案や経費計算などを何度か重複して求められたり、煩わしい面があった。特に観光中心のツアーなどは最初から観光会社に計画立てをお願いするのが良いかもしれない。
- ・荒天のときの代替計画も提出していたが、実際はどうかは、結局、うやむやになった。事実、ツアーの1週間後には房総半島沖を台風が通過しており、天気は大荒れて、ツアー当日に当たっていたら大変だった。荒天の場合についてはきちんと決めておくべきだったと思う。
- ・午後処理に使用する部屋ごとの名簿を用意していたが、参加者の変更がかなりあった上に、当日朝の段階でもはつきりとせず、あたふたした。せめて前日には確定できていたら助かった。
- ・参加希望者の便宜のため、ツアーの詳細な案内を当館のホームページ上に作成して、SC のツアー案内文からリンクを貼るようお願いしたが、結局貼ってもらえなかった。

最後になりましたが、勝浦まで来ていただいた参加者の方々にお礼申し上げます。また、ツアーの運営に御協力いただいた宮田昌彦博士、富塚朋子氏、参加者への資料として御著書を多数提供いただいた馬場将輔博士に感謝します。

(千葉県立中央博物館分館海の博物館)



ツアー参加者 (海の博物館にて)